

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 8月4日

【評価実施概要】

事業所番号	3470204748		
法人名	医療法人社団 林医院		
事業所名	グループホーム 夕顔の家		
所在地 (電話番号)	広島市安佐南区八木八丁目9番23号 (電話) 082-832-0355		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	平成20年8月2日	評価確定日	平成20年8月11日

【情報提供票より】(20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 13 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	12.0 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <u>単独</u>	<u>新築</u> / <u>改築</u>
建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,500 ~ 75,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	<u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 82 歳	最低	54 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	八谷歯科クリニック・ルネッサンス並木通り整形外科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このグループホームは、家庭的で新しい設備を完備したユニットと、畳の間などの古きよき物を活かした設えとなっている2ユニットである。ホームの窓からは田園風景が一望できる恵まれた環境の中で、事業所独自で月毎の理念を掲げ、入居者と職員は共にゆっくりと楽しく、自由とありのままの暮らし、暮らしの喜びと自信、いつも一緒・馴染みの環境を大切に、また、特に散歩での挨拶を通じての地域の人達との交流やお祭り等にも参加をしながら、地域の中での普通の生活が実践されている。運営者、管理者、職員のコミュニケーションも良く、入居者本位のケアを実践しようという熱意が職員の態度、ホームの装飾、庭の活用、食事などを通じ、全体の雰囲気として伺えた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では特に改善点がなかったが、現状に甘んじることなく事業所独自の理念の下で職員全体でケアについて意見の統一を図りながら日常的に入居者と家族の支援に対し取り組んでおり、前回評価時より安心と信頼感がより大きく積み上げられている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は、職員全員の自己の職務として実践の振り返りや確認の内容を基に実施し、改善が必要とする点については、より具体的に改善に取り組む姿勢が示されている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議を活かして地域貢献やホームの現状を知っていただけるような取り組みと、外部からの視点や意見を取り入れてケアの質の向上、地域交流の活発化などを目指している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族などからの意見や相談が言いやすいホームの雰囲気づくりを大切に、常に職員は心がけている。意見や相談があった時はすみやかに職員で共有し、ホームの運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 買い物や散歩時には近隣住民に挨拶を心がけているため、地域の方との顔馴染みが増えてきている。また、災害時連携も含め、地域との良好な関係を構築するため、運営推進会議などや自治会の役員会に出席するなどして話し合っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念や運営方針を分かりやすく職員に伝えることで、それが実際のケアに活かされ、地域の中で理念が自然に浸透していくように努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月、全職員で話し合っつくりあげた理念を共有し、入居者本意の家庭的な雰囲気を大切にしたケアの実践を日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として交流を大切にしているため、近隣の人達との顔見知りの増えてきている。また、菜園の野菜作りは近くの農家の方に教えていただくこともあり、地域に溶け込んだ交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は全職員に外部評価の意義を説明し、職員と共に自己評価に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を活かして地域貢献やホームの現状を知っていただくような取り組みを図っている。また、外部からの視点や意見を取り入れてケアの質の向上や地域交流の活発化を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは常に連絡を取り、連携を深めながら情報を収集し、サービスの質の向上に役立っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や健康状態に変化があった時の報告や、毎月の請求書の発送の際に、担当者からの手紙を同封して毎日の暮らしぶりなどを知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や運営推進会議を通じて要望や意見を汲み取っている。要望や意見があったら直ぐに職員で共有し、対応をしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は最小限で抑えるように努力している。もし、このようなことがある場合は、時間をかけて入居者に説明し、ダメージが無いように馴染みの職員や管理者が対応するなど配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に応じて事業所内外の研修には、多くの機会を設け、また、毎月の会議を利用した内部研修および働きながらのトレーニングを大切にしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の同業者と職員の交流、意見交換、互いのホーム体験などを大切に捉えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や入居者本人の気持の確認などを行いながら、ホームの雰囲気も感じてもらえるようにしている。特に、本人が安心してサービスが利用できるような関係づくりを重要視している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々の生活において、ゆっくり、一緒に楽しく入居者と共に過ごし、多くのことを学んでいる。年月を重ねることによって支えあう関係が構築されてきている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションを通じて、入居者一人ひとりの思いや暮らし方の希望に添えるよう努めている。特に意志表示の困難な方へは、顔の表情や動作等を注意深く観察し、本人本位の意向を吸い上げ取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月毎にケアプランの会議を開き、本人や家族の意見、職員の考え方等を配慮し、利用者の出来ることに注目した考えを取り入れた介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の体調の変化や突発事故など、状態に変化があった時はその都度に見直し、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者本人の状況や家族の要望に応じて、通院や一時帰宅などの移動介助を随時行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者本人や家族の希望があれば、ホームの提携医のほかに、これまでのかかりつけ医への受診も可能としている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にホームとしての考え方や対応に係る指針について充分説明している。また、本人や家族の意向、事業所が対応しうる最大の支援方法を踏まえて、方針をチームで話し合っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、入居者一人ひとりの尊厳を重んじ、人生の先輩として敬意を払い、これらに注意しながら言葉かけや対応を行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその人らしい暮らし(計算ドリルが趣味の方・飾り物作りなどが得意な方など)をそれぞれの個性に合わせた支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や片付け・食器洗いなどそれぞれ出来ることを一緒にしている。ホームの家庭菜園でみんなで育てた野菜をメニューに取り入れたり、また、食卓は職員も共にし、コミュニケーションの場となっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の生活習慣や、その日の希望や状態に合わせて、個別の入浴支援を柔軟に行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食後の片付けや食器洗いなどを率先してやる方、その場を和やかにする方など、一人ひとりの生活歴や出来ること・出来そうなことを活かした支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良ければ、散歩や近くの商店へ買い物に出かけたりしている。また、外出を多く取り入れ、戸外へ出かける機会を多くしている。行事毎に写真を撮り、入居者一人ひとりのアルバムを作成し、本人や家族にも好評を博している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の防犯目的以外の施錠は行っていないが、日常的には入居者の所在を常に確認して、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に地域の人達と合同で避難訓練を行っている。また、自主訓練では通報装置や消火器の使い方など行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師から指示がある場合は摂取量の調整・好み等を考慮し、一人ひとりに対応をしている。食事と水分摂取量は毎回確認している。摂取量の少ないときは回数を増やす・代わりのものを用意するなどして対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、入居者の方々の意見を参考にしながら、和やかな雰囲気醸し出している。日差しの強いときはカーテンを使用して光の加減を調整している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れ親しんだ家具や備品が持ち込まれ、それぞれの居室が入居者のオリジナリティに溢れ居心地のよい空間形成がなされている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 夕顔の家 ユニットB

評価年月日 平成20年 7月 22日 記入年月日 平成20年 7月 22日

記入者 職 管理職 氏名 宮本 泰弘

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域の中で生活していることを大切に、利用者が地域の一員としてその人らしく生活できる様独自の理念を作り支援している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎朝、朝礼時に職員と管理者で理念の意味を把握しながら読み上げ、意識の向上に努めている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	家族や地域の協力を得ながら、地域行事への参加や、施設内での催しを行っている。 また、呼びかけをし分かりやすく取り組んでいる。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日頃から、挨拶をし合う等顔見知りのご近所さんも多い。 近所付き合いや関係作りだけでなく、災害時にも協力して頂ける様な馴染みの関係作りにも取り組んでいる。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地元行事や役員会への出席など、地域の一員として交流の場には積極的に参加する等の取り組みを行っている。		今後、自治会への入会や小中学生の実習の受け入れにも取り組んでいく予定です

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	事業所が少しずつ積み上げてきた支援に関する知識や経験を、地域の人々に活かしていけるように勉強会を開いている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員が前向きに取り組んでいけるよう、他の施設の管理者を交えて評価の意義や活かし方を共有し、具体的な改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議後は、どのような話し合いがもたれたかを職員間で共有し、評価の取り組みや、評価後の改善への取り組みに対してのミーティングを行っている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営や現場の実情などを積極的に伝える機会を作り、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修等に参加後、勉強会を開き全職員が理解に努めている。また、必要な方には活用出来る様に関係機関への橋渡しをしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修で学んだことを勉強会で伝達し、理解を深め、虐待の危険を早期に見つけ関係機関と協働しながら速やかに対応し、防止に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、利用者や家族に不安がないか、それぞれの立場に立ち、納得をして頂いた上で手続きを進めていく配慮をしている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	苦情や意見の記録を残し、職員全員で話し合いの場を設け、その都度解決に努めている。 また、相談・苦情窓口を設けている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月の生活の様子を手紙で報告し、各居室にはアルバムを作成し、面会時に見て頂いている。 金銭管理についても、出納帳を家族に毎月報告し、確認して頂いている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	率直な意見・不満・苦情を前向きに受け止め、家族が安心できる、職員との関係作りに努め、外部者に表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	現場の職員の意見を十分に聞き、運営者や管理者が職員の声に耳を傾け、働く意欲の向上や質の確保に努めている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者や家族の状況や要望に沿ってローテーションで勤務調整を行っており、実情に応じて時間帯を変更している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員の異動や離職など、やむを得ず職員が交代する場合は、利用者へのダメージを最小限にする為の検討やケア継続の為の引継ぎをしっかりと行っている。</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>各自の経験や、習熟度の段階に応じ、事業所内外の研修にも参加し、職員が働きながら技術や知識を身につけていけるように支援している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>同業者との交流を強化し、職場内で行き詰った日頃の悩みや緊急時の連携を行い、地域全体の向上に努めている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員がストレスをためないよう、継続的ストレスを軽減する為に、短時間でも心身を休めることのできる場所の確保に取り組んでいる。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>管理者は、職員の日頃の努力や実績、勤務状況を把握し、向上心を持って働けるように対応していく事に努めている。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>コミュニケーションを大切にし、不安な事・求めている事に耳を傾け、受け止めることが出来るよう努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	日頃から、職員は家族とのコミュニケーションに取り組み、家族の不安や思いを受け止め理解しながら支援している。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者と家族の要望に出来る限り対応していくように努め、必要に応じてできる事は速やかに実行している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人が安心し、納得した上で、サービスが利用できよう、家族と共に支援している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個性や力、どの様に生活していきたいかの意向を知る為に、「共に過ごし、学び、支え合う」事を大切に、喜怒哀楽を共にする関係を築いている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員と家族が連絡を密にしながら、生活の中での喜怒哀楽も共にしながら、本人の生活を支援し、対等な関係を築いている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	これまでの本人と家族との関係を考慮したうえで、ホームでの生活や介護にも家族が関わっていけるよう、機会作りを支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>今までの人間関係や社会との関係を把握し、関係が途切れないように支援している。 また、馴染みの季節行事への参加や外出も積極的に行っている。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>利用者間での関係作りを支援しながら、孤立する事なく、共に暮らしを楽しめる様支援している。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>個々の事情でここでのサービスが終了した後も、必要に応じて民生委員等を通し、相談しながら支援・相談に応じる姿勢を示している。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</div>				
1 一人ひとりの把握				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>介護計画を活用し、生活暦や経験を活かし、生活の意向や把握に努め、利用者一人ひとりが活躍できる場面作りに工夫している。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>介護計画を活用し、プライバシーを配慮しながら、馴染みの関係を築き上げている。 また、日々の暮らしの中で、これまでの暮らしを括えていけるように努めている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>職員全員がチームとなり、利用者本人が出来る力・分かる力を暮らしの中で発見し、一人ひとりの状況を把握できるように努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人及び、家族・関係者からの意見、アイデアを基に本人がその人らしく暮らす支援として何が必要かを検討し、介護計画を作成している。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月毎の見直し期間は設けているが、本人・家族の要望や変化に応じて臨機応変に見直し、現場で実践的な対応ができるようにしている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録には職員しか知りえない事実やケアの気付きを具体的に記し、それらを職員間で共有しながら日々のケアに活かしている。またそれらを介護計画の見直しにも活かしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	その時々々の本人と家族の状況や要望に向き合い、老健や病院への転居等必要な支援を提供し、継続的に支える様になっている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	町内会や民生委員、各機関（消防・ボランティア・学校等）の理解・協力を得て、少しでも安らかに生き生きとした暮らしを作っていけるように取り組んでいる。		民生委員見学会や、中学校の職場体験の受け入れ等地域資源と幅広く協働している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	利用者本人の希望をかなえる為、施設内で抱え込まず、本人を良く知る家族やその他関係者と話し合い、理美容や配送サービスが使える様に支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターと協働しながら、認知症の人を地域で支えていけるよう取り組んでいる。		今後は、地域包括支援センターと協働でアドバイザー養成講座を開催予定。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人もしくは家族の希望する医療機関で受診している。また、医師の回診(水・土)、受け入れ病院連携(ルネッサンス並通り整形外科)各医療機関関係者確保(外科・内科・皮膚科・歯科)により、適切な医療を受けられるよう支援している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	受診支援のある医療機関では親切に対応していただいている(必要などときには往診あり)。また、当理事長林Dr.に相談することで指示、助言を頂いている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	個別の状態を良く知る看護師がおり、日常の健康面や医療面的な面について他の職員と情報を共有し対応すると共に、緊急時の対応、薬について等勉強会を開き、協働体制を築いている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	本人のストレスや負担を軽減する為に、家族や医療関係者と相談しながら、スムーズな退院に繋がるよう退院計画を本人、家族、スタッフで話し合い、支援を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>入居と同時に重度化した場合や終末期のあり方について、本人、家族、主治医と話し合い、また、その時々本人、家族の意向を確認し、全員で明確に共有している。</p>		<p>契約時に重度化、終末期のあり方について説明し、家族が納得した上で支援している。</p>
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>対応が可能なこと、困難なこと、不安なこと等を職員全員で率直に話し合い、家族や医療関係者等と連携を図りながらチームで支援していきけるよう体制を整えている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>移り住むダメージを最小限に留める為に、関係者に対して本人の状況、習慣、好み、これまでのケアの工夫等の情報を詳しく伝え、継続的に配慮してもらえるように働きかけている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>職員一同、利用者に対して敬意を払い接するよう心掛けており、プライバシー確保については常に具体的に確認し合い、個人情報が外部に漏れないよう徹底している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者が言葉では十分な意思表示が出来ない場合であっても、表情や反応をすばやくキャッチしながら、把握し、理解しながら密接な関係作りや馴染みの中で生活が出来るよう支援している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりの生活のリズムやその日にしたいと思っている事を大切に、状態や思いを考慮しながら入浴や食事の支援を行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	一人ひとりの個性・希望、これまでの生活層に応じ、髪型や服装、お洒落をそれぞれに支援し、本人の好みや意向に近づけるよう支援している。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	できる力を活かして準備から手伝っていただき、空いている席で、利用者と共に食事を楽しむようにし、さりげなくサポートしている。 食後は皿洗い、後片付けを一緒に行っている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	自宅と同様に馴染みの嗜好品が楽しめるようにし、他の利用者の迷惑にならないように配慮しながら支援している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	出来るまで見守りを行い、出来ない部分をさいげなくカバーしながら、利用者一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	職員のペースではなく、基本的には、利用者の希望(時間帯・長さ等)に合わせて入浴している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	これまでの生活習慣等を関係者と検討しながら、本人にとっての自然なリズムに必要な休息や睡眠をとれるよう支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	潜在している記憶やできる力を最大限活かして自分らしく暮らせるように、園芸・掃除・食器洗い等個々の力量、好みに合わせた役割や楽しみ、気晴らしの支援をしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族とも本人にとってのお金の意味を話し合い、管理方法をとりにきめて、小銭を所持してもらったり買い物に行く時は本人が支払えるよう支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望に沿って買い物や散歩に出掛ける等日常的に外出できるように個別に支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	行きたいところを本人や家族から把握しており、馴染みの関係や各種サービスを活かしてふるさと訪問や墓参り等の機会をつくり支援している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	日常の手紙・暑中見舞い・年賀状等を書いて頂いており、プライバシーに配慮しながら本人が読み書きしたり、電話を使用することを個別に支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪ねやすく、居心地良く過ごせる様に、訪問時には湯茶等の用意や利用者と家族、面会者が団楽できるスペースの工夫をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者が受ける身体的・精神的障害について、全職員が理解しており、必要に応じて専門職の助言を受けながら拘束しないための支援を常日頃から行っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	SECOMを導入している為、日中は鍵を掛けなくても良く、また、目の届かない場所で察知できるようになっている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は、昼夜通して全員の様子を常に見守れるように位置し、プライバシーに配慮しながらさりげなく観察できるようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状況に合わせて、注意が必要な物品は何かを職員全員で把握し、管理方法の確認や取り決めを行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険を検討し事故防止に努めており、事故発生時には再発防止策をその都度話し合い検討している。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	当理事長Dr、看護師の指示・指導のもと全ての職員が応急手当に関して定期的に訓練を行っており、緊急時に活かせる技術を身につけていけるよう取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	地域の人々や他の事業所の協力が得られるように、日頃から話し合いを行い、一緒に訓練を行う等、取り組みを行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	家族との普段からの関係作りを基盤に、一人ひとりに予測されるリスクについて状況変化に応じて繰り返し率直に話し合うようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	変化や異常の兆候をいち早く気付き、すぐに報告し、早期対応に結びつける様に職員一同対応に取り組んでいる。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師を交えて薬についてのミーティング、勉強会を行っており、飲み忘れや誤薬については細心の注意を払っている。また、心身上の変化や課題が見られた場合は速やかに医療者に情報提供を行っている。		薬を手渡しするときに3～4回顔と名前を確認し、誤薬がないように徹底している。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	個々の便秘の原因を探り、食事、排泄、活動状態等を見直し、家族とも相談しながら自然排便を促すよう働きかけている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の歯磨き、イソジンの使用、義歯洗浄等を行い、利用者の力を引き出しながら口腔内の清潔保持に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	入居者一人ひとりに合わせ、また、その日の体調に合わせて主食をお粥にしたり、副食を食べやすく刻んだり、管理栄養士を中心に対応している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	当理事長林Dr.作成のマニュアルをもとに勉強会を行っており、実行している。また、感染症の流行や対応策について日常的に情報が得られるよう努力している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	清潔・衛生を保つための管理方法を取り決めており、場合によってはアルコール殺菌すると共に、食器は常時食洗機を用いて75℃の加熱を行っている。		
<p>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	利用者や家族等、地域の人たちの感想や意見を参考に、玄関周りに草花を季節毎に植え替える等工夫し、訪問しやすいよう心掛けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間が自分の力でその人らしく過ごせる場となるように、利用者一人ひとりの意見を参考にして居心地の良い場所となるように配慮している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室で休む空間と、フロアで他の入居者と自由に団樂できる空間を設けている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具を持ち込んだり、使いやすい物を購入したりと、居心地良く、プライバシーに配慮した安心できる環境作りに努めている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日全棟の窓を開け換気を行っており、入居者一人ひとりの状態や反応を見ながら、季節に応じてできるだけ自然環境に近い空調の管理に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの身体機能、状態に合わせた危険の防止や自らの力を活かして自立に向け道具の工夫をしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室の入り口には目線に合わせて名札をかけ迷わないように配慮し、トイレや浴室等もわかりやすく明示している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	利用者と一緒に外周りの花壇に花を植えたり、草取りをしている。ベランダについても一緒に洗濯物を干したり日光浴をする場として活用している。		